入試年度	2024	入試方式	一般（春季）	課程	博士前期
研究科	発達教育学	専攻	心理学	領域（分野）	臨床心理学

出題のねらい

入学者受入れの方針に記されたように、筆記試験では、「心理学に関する総合的な専門的知識あるいは技能の有無について精査する」ことを目的とするが、専門の筆記試験では以下の２種類の問題を用意してこれらについて評価する。
まず、心理学領域（基礎的な心理学）、臨床心理学領域の両方を含む心理学の広範囲に及ぶ領域についての知識、理解、技能を評価する。具体的には、認知心理学、社会心理学、生理心理学、心理統計学、臨床心理学、発達臨床心理学などの各領域から、知識、理解などを問う問題を出し、それぞれに簡単に解答することが求められる。もう１種類は、臨床心理学に絞って、より深い知識や理解を問う問題に回答することが求められる。こちらの問題では、臨床心理学領域の考え方や諸概念がしっかりと身についていて、それらについて適切な日本語で、人に伝わるように議論できるかどうかを評価することを目的とする。また、対人援助職を目指すものとして押さえておくべき倫理についての知識や心構え、対人援助の実務に関する知識を評価する観点も持つ。

解答・解答例または採点時の評価ポイント

上記の狙いに沿った評価を行う。具体的な評価のポイントは以下の通りである。
【１】は、上記の１番目の心理学の広い領域についての知識や理解を評価するための問題で、６つの小問からなる。各小問は、認知心理学、社会心理学、生理心理学、心理統計学、臨床心理学、発達臨床心理学などの各領域から、重要な概念や現象などについての簡単な説明を求める問題からなる。これらについては深い議論が求められるわけではなく、確実な知識、理解を有するかどうかが問われる。4～7行程度で簡潔な説明ができていれば高い評価が得られる。
【２】【３】は、上記の２番目の臨床心理学領域に関するより深い知識や理解を問う問題である。【２】では、心理的アセスメントの目的、方法と留意点について、指定された具体例に即して論じることが求められる。それぞれをリストアップするだけでなく、背景にある考え方を示し、目的、方法、留意点の間の関連を示す必要がある。【３】は被災者に対する心理的援助に関して方法や留意点を問う問題である。やはり方法や留意点をリストアップできることは重要であるが、【２】と同様に背景にある考え方を示し、被災者に対する心理的援助の目的や特殊性を踏まえた上で、それらと方法、留意点の間の関連を示すことが求められる。